

北海道方面

國道四號線就勞職業別

小樽札幌間失業救済道路工事就役登録數は本日迄男四千七百九十二人、女百三十八人計四千九百三十人にして二十歳未満二百五十六、廿五歳迄四百七十四、卅歳迄六一、四十歳迄千三百六十七、五十六歳迄千五百八、五十六歳以上七百七人て之を職業別に見れば最高は人夫、大工、石工等の九百七十一、次位は仲仕積取人等の三百四十四人、第三位は農業従事者の三百三十四人

地方通信

次は探炭夫、漁夫等にして特殊失業者としては元官公吏各三人、著術家店員藝術家記者各二人軍人醫師教員の各一人で之れに依つて見るときは今回の救済事業は窮迫せる多方面の世相に昭映するであらうが一般事業界尙不況の爲め最近でも就勞希望者が小樽市役所に押しかけて居る由である。最初小樽からの出勞者割當は九十名としてあつたが現在では百四十名に達して居る。

東北方面

東北一由利橋開通式

秋田縣本莊町地内由利橋開通式は六月二日午前十時から盛大に舉行された。初夏の新緑は子吉川の清流に映して打揚ぐる火花は遠く東光山に響き神官の奉仕する嚴なる拍手は俗人の奏する樂音に和して、知事内務大臣道路改良會長縣會議長以下左に掲ぐる次第書の通り順次玉串を奉奠し畢て片桐土木課長は本橋の架設に關する工事要項に就て報告をなすや滿場拍手を以て其の勞を慰謝し、再び起る拍手裡に稗方知事は境上に進んで式辭を朗讀した此時既に正午となり高齢者は履物を草履に代へ渡橋式委員は右往左往準備忙殺の間に多數の祝辭終り次で協賛會長小田勘兵衛氏の挨拶ありて一先づ式を閉ぢ、橋畔に整列を行ひ神官の先殺にて知事以下順次通り初めを行ひ午後一時終了したが高齢者及參列者は午後二時公會堂に集まり祝意を表する意味で冷酒を傾け萬歳を三唱して散會した。

由利橋竣工式順序

(昭和六年六月二日午前十二時)

第一	同 参列	第一	同 参列
二	修 儀	二	修 儀
三	降 神	三	降 神
四	祝 詞	四	祝 詞
五	玉 串 奉 讀	五	玉 串 奉 讀
六	齊 主 玉 串 奉 讀	六	齊 主 玉 串 奉 讀
七	知 事	七	知 事
八	内 務 大 臣	八	内 務 大 臣
九	道 路 改 良 會 長	九	道 路 改 良 會 長
十	縣 會 議 長	十	縣 會 議 長
十一	本 莊 組 長	十一	本 莊 組 長
十二	櫻 田 組 長	十二	櫻 田 組 長
十三	來 賓 總 代 同	十三	來 賓 總 代 同
十四	撤 退	十四	撤 退
十五	土 木 課 長 工 事 報 告	十五	土 木 課 長 工 事 報 告
十六	知 事 式 辭	十六	知 事 式 辭
十七	内 務 大 臣 告 辭	十七	内 務 大 臣 告 辭
十八	道 路 改 良 會 長 祝 辭	十八	道 路 改 良 會 長 祝 辭
十九	縣 會 議 長 祝 辭	十九	縣 會 議 長 祝 辭
二十	本 莊 組 長 祝 辭	二十	本 莊 組 長 祝 辭
二十一	來 賓 祝 辭	二十一	來 賓 祝 辭
二十二	式 終 了 ノ 旨 ヲ 告 グ	二十二	式 終 了 ノ 旨 ヲ 告 グ
二十三	渡 初 ヲ 行 フ	二十三	渡 初 ヲ 行 フ
二十四	退 散	二十四	退 散

(土木課長)

(齊主)

(神職退下)

(土木課長)

信越方面

失業救済道路工事進捗

新潟國道改良事務所の失業救済國道改良工事は施行地蒲原郡濁川村より大崎村、佐々木村、聖籠村間は豫定通り進み現在は沿道の要救済者二百五十人位使用して居るが猶ほ農閑季を過ぐれば五百人にも達すべく最初豫想せる六七百人を使用するやうになれば工事も大いに進捗すべく大體の工事は降雪期以前に終了せしめて年度内には全部竣工せしむる豫定であるが現在の實銀は男七十錢女五十錢を標準とし五日拂ひを原則として居る併がし本人又は保護者の希望により日拂ひ等の分も多少ある。

善光寺参詣道路舗装

信州の長野驛より善光寺に詣る道路は擴築完成後數年を経過せるも未舗装の惡道路で全國から参詣する善男善女の履服を踏ま

關東方面

坂東大橋開通式

群馬縣佐波郡名和村大字八斗島と埼玉縣兒玉郡旭村大字山王堂入會利根川に築設した坂東大橋の開通式は六月十五日同橋畔に於て嚴かに舉行された、午前十一時開式の管なりしも内務大臣代理の自動車が對岸までは着いたが開通式前の故を以て渡橋出來ず昔ながらの悠暢たる渡舟に依つたので約一時間遅くれて開式したが神官亦悠暢たるもので参列者は式場係りに進行を促すがが神仕へ者は猷儀醜化も厭はず遅々たり馬で群馬馬玉兩縣知事の玉串奉奠は實に午後一時半であつた、それに橋長九丁餘の往復は暑氣の際高齢者には困難とあつて新に小學

兒童數百名を以て之れに代へたので其混雜

名狀の外にて内務部長や縣會議員が交通整

理に當る狀態で係員諸氏の苦慮は容易でな

かつた、架橋地點は從來の渡舟場より二丁

餘の下流とし偶々上毛電氣鐵道會社の鐵道

橋と合併架橋することとなり鐵道橋の架設

中心より十呎上流に中心を移し流心に構橋

を其前後に(口繪に示す如く)鉸桁橋を配し

徑間は鐵道橋に古材の鉸桁を使用する關係

から限定せられ合併架橋の構橋は河川狀態

よりして徑間二百四呎を六連、鉸桁七十三

呎を十九連、六十二呎六吋五連、工費九十

萬四千四百六十一圓職工人夫延四萬七千三

百三十一人を要したのであるが本橋は群馬

縣伊勢崎と埼玉縣本莊町とを連繫する最捷

路に當るので附近一圓は大歡喜を以て迎へ

八木節の鐘大鼓遠近に轟き本莊町の如きは

山車廿餘臺を出して深更まで賑つた。

記念碑の額額は岩槻首相の筆に成り碑文

は左の如くである。

上武ノ境ヲ劃リ刀水洋々トシテ東スル處一

地方通信

大長橋ヲ架ス、題シテ坂東大橋トイフ、長

九百十七米五、幅十米七、工費百二十八萬

餘圓其ノ建築ノ剛堅ト其結構ノ壯麗トハ兩

々相俟テ完璧ニ近ク橋姿巍然威容堂々、蜿

蜒タル蒼龍ノ深淵ヲ出テテ將ニ九天ニ騰ラ

ントスルガ如ク眞ニ近代ノ一大偉觀タルニ

庶幾シ、蓋此地ヤ上武ノ要津ニ當リ夙ニ八

山架橋組合ナルモノアリ梁舟ヲ浮ヘテ交通

ノ便ヲ圖リタリト雖モ潦漲一タビ奔流スレ

バ行路忽チ斷絶シテ亦施スニ術ナシ殊ニ輓

近産業發達シテ物資ノ輸送益繁激チ加ヘ長

ク其舊態ニ在ルチ許サス有志依テ相謀リ速

ニ之ガ濟策ヲ講セラレンコトヲ其筋ニ願フ

ヤ切ナリ、此間ニ於ケル地元町村特ニ機業

園ノ犧牲ト本郡選出縣會議員等ノ努力トハ

實ニ此橋ヲシテ今日アララシメシ所以ナリ即

大正十三年其管理縣ニ移リ無賃橋トナリシ

モ而モ尙不便不備尠カラサリシヲ以テ之ヲ

稍完備セル耐久橋ニ架換セシムコトヲ冀ヒ日

夜奔走財貨ノ寄附ヲ求メ普ク地方ノ有志ニ

訴ヘテ協賛ヲ得之ヲ本縣ニ致ス縣亦見ル所

アリ十五年本橋架設ノ經緯ヲ樹テ埼玉縣ノ

同意ヲ需メ之ヲ内務大臣ニ稟請ス適上毛電

氣鐵道會社亦之ト雁行シテ專川橋致設ノ計

劃アリ合同ノ誓源ヲ受ク乃同會社ト交渉議

漸ク熟ス、爰ニ設計ヲ變更、テ本橋ヲ鐵橋

トナシ昭和四年認可ヲ得同年二月起工式ヲ

行フ爾來銳意工ヲ董シ幾多ノ障礙ヲ排シテ

營々二十餘月全ク工ヲ竣ヘ六月十五日ヲト

シテ落成式ヲ舉ク、想フニ我上毛ノ地峻嶺

西北ニ起伏シテ北越ト腹背相隔絶ノ東南ニ

坂東太郎アリテ長江滔々上武脊齒相沮ム今

ヤ北ニ上越鐵道ノ開通アリテ比隣相呼應シ

南ニ坂東大橋成リテ輻輳車相來往ス縣民ノ幸

福幾何ノヤ茲ニ有志相謀リ碑ヲ建テ本橋完

成ノ由來ヲ述ヘ之、參與セル名士ノ芳名ヲ

錄シ永ク後昆ニ傳ヘントス予會本縣ニ知々

リ囑ニ應シ文ヲ撰シ併セテ書ス

銘曰 山聳水漲 神劍鬼造 鐵橋躡處

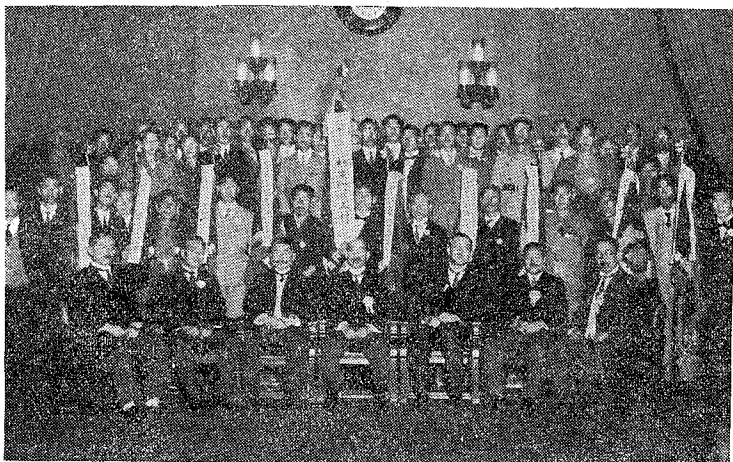
車馬周行 濟民鴻澤 共天地長

昭和六年六月 群馬縣知事 堀田 鼎

神奈川縣道路優賞旗

山縣神奈川縣知事は曩に廣島、兵庫等に
 長官たりし時道路愛護共進會を春秋二回開
 催し好成績を擧げたので昨年縣費の節約と
 なるや田邊土木部長と協議し縣下に其の事
 情を宣言するや、直ちに之に應じて参加せ
 る數實に二萬八千八百六十七人二百六十三
 箇隊に達し、想像以上の良成績を擧げたの
 で、御下賜金中より優賞旗十本を製作して
 最も優良なる團體に夫れ一一年間保有せ
 しむる事としたが、累年良好なる結果を見
 るに至つた、即ち四年度に於ける参加人員
 は横濱工區四千九百三十四人、川崎工區七
 千〇五十四人、横須賀工區二千六百七十
 一人、藤澤工區一千三百五十七人、大磯工區
 三千九百八十六人、小田原工區三千六百十
 五人、松田工區一千三百〇八人、厚木工區
 二千〇二十一人、中野工區一千九百二十一
 人、計二萬八千八百七十七人であるが更ら
 に五年度に於ては一躍三萬八千八百六十一

人此の作業延人員四十萬七千九百九十一人と



なり之を神奈川縣平均人夫賃一日一圓二十

錢とすれば實に四十八萬八千六百二十九圓
 二十錢となる、地方によりてけ川砂利の採
 集其他に一日十時間以上精勵せる團體數拾
 を算するが故に其の實質に於ては百萬圓に
 も相當すべき良成績を擧げ得たるを以て山
 縣知事田邊所管部長は勿論、費用其の他に
 就ては落合内務部長、交通其の他の諸點で
 け林田警察部長、衛生其他思想上の良き手
 本として九鬼學務部長も、また春藤道路、
 村瀬河港兩課長も感激し去る六月十二日比
 較審査を経て優良個所に對し意義ある優勝
 旗授與式を舉行し山縣知事の式辭、道路改
 良會長(代理)、縣會議長の祝辭、一等授賞
 者の答辭等ありて式を閉ち、別室にて知事
 より茶菓の饗應あり、各工區の優良團體代
 表者拾數氏より道路の改良及道路愛護に關
 する苦心談又は感想等を披瀝し、これに對
 し、山縣知事 田邊部長より挨拶を述べ最
 後に神奈川縣萬歲、道路愛護會萬歲を三唱
 して、午後三時和氣瀟々裡に散會した。

東海方面

愛知縣改良路線決定

愛知縣の昭和六年度失業救済道路路費七十三萬三千圓中二十三萬四千圓は國庫から補助される事になり其路線は左記二十三線とし内務省の指令次第順次着手するもので縣下農村失業者も餘程救済される譯である。

名古屋犬山線——東春井郡味岡村より丹羽郡樂田村に至る一千二百二十九米。樂田高藏寺停車場線——東春井郡篠岡村より丹羽郡樂田村に至る四千四百五十三米。半田常滑線——知多郡常滑町より同成岩町に至る二千三百四十三米。赤羽根二川線——瀨美郡高豊村より同杉山村に至る二千三百九米。龜穴豐川線——寶飯郡八幡村二千七百三十六米。切山岡崎停車場線——額田郡形槎村大字井澤二千三百七十六米。作手岡崎線——南許樂郡作手村より額田郡宮崎村に至る二千六百五米。下吉田八名線——二千七百九十八米。田原田口線——北許樂郡段

地方通信

嶺村五百七十七米。足助新城線——南設樂郡

鳳來寺村二千二百二十一米。三澤本郷線——

北設樂郡園村二千三百米。北條平越戶

停車場線——西加茂村大字御作二千四百二

十二米。本郷海老線——南設樂郡海老町二

千二百七十米。花澤岡崎線——北加茂郡松

平村三千二百七十二米。上横須賀蒲郡線——

幡豆郡横須賀村一千三十二米。切山岡崎

停車場線——額田郡河合村千二百六十米。

陶舉母線——西加茂郡小田原村八百五十米

鳴海多治見線——愛知郡天白村二千米。勝

川清州線——西春日井郡山田村春日村二千

七百米。一宮犬山線——葉栗郡草井村二千

〇七十三米。瀬戸千種線——瀬戸市愛知郡

幡山村二千八十六米。岡崎蒲郡線——額田

村幸田村二千三百七十八米。切山岡崎停車

場線——岡崎市美合町二千〇二十八米等で

ある。

中國方面

福來橋の渡り初め賑ふ

縣道別府三木線中草谷川の假橋は近來交通量の増加におびやかされ修理や架け替に不尠惱まされて居るが此橋附近は登狩りにもよくまた月見の名所として古來その名を稱されて居るので、一層のこと假橋を堅牢な鐵筋コンクリートに改め且つ之れに相當の意匠を凝らして附近の景色と釣合ふやう出来る丈け美觀を添へんとは數年來の希望であつたが此の程に至り延長二十二米有効幅員四米八の近世式コンクリート橋竣成し地方の人々け年來の希望が叶つたので狂せんばかりに喜び去る四日藤本瀧藏(七十五歳)妻かね(七十五歳)、男宗三郎(五十二歳)妻せん(四十六歳)、孫勝治(二十六歳)妻すぎ江(二十四歳)の三夫婦を先頭に地方有志三百餘名威容正しく渡り初めをなし終つて草角力や盆踊り等あり近來珍らしい賑ひであつた。

前田橋竣功式舉行

兵庫出石の合橋村から高橋村に通ずる前田橋は豫て八鹿町寺田組の手で架設中の處多少難工事との噂もあつたが對して犧牲も出さず先頃竣工したので六日午後十一時から同所で竣功式を舉行した、架橋關係官公吏縣會議員關係各町村長協賛會員等順次祭壇に玉串を捧げ豊岡土木出張所主幹の工事報告に次で來賓の祝辭二三あり次で神官露鹽の先行で前記の順序により通り初めを行ひ終つて來賓一同を公會堂に招じて立食の賀宴を張り記念の扇子を配付して萬歳を三唱し午後二時散會した。

四 國 方 面

高知徳島登山道路改修

太平洋から魅惑的な風を受ける四國の山河は常に微笑を以て來觀者を迎へて居る、殊に登山シーズンが近づけば青空に聳ゆる姿は得も言はれぬウキンクを送つて来る。高知縣體育協會では官廳半休學校全休の季に

長岡本山奥の白髮山に登るべく協議を凝らし中等學校女學校等でも夫れんぐプランを立てかけて居るが四國隨一の靈峯石槌山は七月一日から十日まで盛んに山開きが行はれ高知警林局は特に登山道を改修して利便をばかる筈で高岡郡池川町青年團でも道路の維持修繕に力を盡くし、また阿波の劍山は七月十四日山開きで此處では香美郡植山村青年團が登山道路を改修する事に決定し六月下旬から工事にかける筈である。

九 州 方 面

風師山下ドライブ道路

夏枯時の失業救済事業として將又遊覽客誘致の一策として門司市が計畫した風師山ドライブ道路は愈々起工するに決し總工費三萬九千餘圓を以て清瀧公園より三角山の麓を螺旋形に緩るき勾配で垣々たる三間路が蜿蜒千六百間の附近に上り幅員十三間長さ五十間位の廣場を設けて自動車置場と

し其れより頂上までは僅かの徒歩距離であるから之が完成の上は遊覽自動車も増加すべく車窓から絶景を賞しつゝドライブするを得るに至るであらう。

宮崎縣橋橋工事進捗

宮崎縣橋橋の架橋工事はその後着々と進捗し、今秋一ばいには幅九間延長二百間工費百廿萬圓の堂々たるモダン新橋橋は昨年起工以來一年半目にあらかた架橋工事を終るはずである、現在までに出來上つてゐる橋脚は十三連中宮崎側四連、大淀側四連の都合八連でこの橋脚間は各十四間残されてゐる中央部の五連一橋脚間各十六間一は出水期を前に目下夜を日について工事を急いでゐるが、九月一杯に竣工、直に鋪裝工事にかゝり豫定の如く來春三月中には竣功せしむることになつてゐる。